

第356号

2018年
11月25日

月1回25日発行

げんぱつ

原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター
発行人 中村敏夫/1部300円 年間3,000円
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
MMビルII 402
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578
郵便振替 00150-7-355202
ホームページ <http://genpatu.com/index.html>
メール=genpatu-c@bizimo.jp

「福島事故の検証のない原発再稼働はありえない」全国交流集会 in 柏崎

三つの検証なしに 新潟県民世論の教訓学ぼう！

「福島事故の検証のない原発再稼働はありえない」全国交流集会 in 柏崎は十一月十一日、新潟県柏崎市の「柏崎産業文化会館」で百二十人が参加して開かれた。原発問題住民運動全国連絡センター（原住連）と現地実行委員会の共催。

開催地・新潟県は、世界最大規模の東京電力・柏崎刈羽原発（七基）の所在地。東電は同6、7号機の再稼働を狙っているが、福島第一事故後、泉田知事（当時）が「事故の検証なしに、再稼働議論は始められない」と表

明以来、米山知事が①事故の検証、②健康・生活への影響の検証、③避難計画の検証の「三つの検証」に具体化、自公推薦の花角知事も、この「三つの検証」を継承するに至っている。まさに県民世論の力量の反映である。この「三つの検証」は、全国でも共有すべきものである。

集会では、日本共産党国会議員団から藤野保史・衆院議員、原発をなくす全国連絡会から全労連副議長の長尾ゆりさん、日本科学者会議から小林昭三・新潟大学名誉教授が来賓あいさつ。池内了・名古屋大学名誉教授

「メール・アドレスの訂正」前号「でお知らせしたメール・アドレスの変更」に誤りがあり、お詫びして題字の肩書きにあるように訂正します。

が「福島事故の検証—何をどのようにに検証するのか—地元自治体に問われるもの」と題して記念講演を行った。

集会は林広員・原発問題住民運動福井連絡会事務局長、宮崎孝・原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター事務局次長を議長団に選出、議事に入った。

伊東達也・原住連筆頭代表委員が「全国交流集会への問題提起」を行った。

昼食休憩の後、立石雅昭・新潟大学名誉教授が「新潟からの報告」をした。

討論では、十人が発言。伊東氏が「討論のまとめ」を行った。

集会は、「柏崎からのアピール」の提案を採択し、閉会した。

記念講演をした池内氏は検証総括委員会委員長、立石氏は技術委員会の委員を歴任している。

集会は、池内、立石両氏の貢献に謝意を表した。



「問題提起」する伊東氏

- 「柏崎からのアピール」(二面)
- 池内氏「三つの検証」に「三年必要」(三面)
- (五面)

警鐘

●全国交流集会の開催地の柏崎市は、「原発の街」として知られるが、実は「再生可能エネルギーの街」でもあったこととは知られていない●柏崎市の赤坂山浄水場に、赤岩ダムから同浄水場までの落差(約百十メートル)と流量エネルギーを利用した赤坂山発電所(運転開始二〇一七年二月)がある。年間発生電力量約八十六万キロワット(一般家庭約三百軒分)である●

柏崎市上下水道局の自然浄化センターに、下水汚泥から発生する消化ガスを利用した消化ガス発電(稼働開始二〇一三年二月)が行われている。同センターの電気使用量の約二割を賄う。合わせ二酸化炭素排出を年間約六百ト削減している●柏崎市は石油発祥の地であり、原発立地と合わせ再生可能エネルギー開発に取り組む。小さい規模だが、無限の未来が示される。柏崎市はエネルギーの街である。